

第1日曜日
主日第一礼拝 9:00～
主日第二礼拝 10:30～
その他の日曜日
教会学校 9:00～
主日第一礼拝 9:00～
主日第二礼拝 10:30～

日本基督教団 麻布南部坂教会会報

2022 (令和4年) 7. 10

牧師 松谷 祐二

〒106-0047 東京都港区南麻布4-5-6 Tel & Fax 03 (3473) 1276
E-mail church@nanbuzaka.com http://www.nanbuzaka.com/

印刷 有限会社 創文社 Tel (3491) 8321

祈祷会
第2日曜日 礼拝後
成人会
第3日曜日 礼拝後
婦人会
第4日曜日 礼拝後
教会附属 南部坂幼稚園

「お前は怒るが、それは正しいことか」

牧師 松谷 祐二

ヨナ書 第三章一〇節～第四章一節

神は彼らの業、彼らが悪の道を離れたことを御覧になり、思い直され、宣告した災いをくだすのをやめられた。

ヨナにとって、このことは大いに不満であり、彼は怒った。彼は、主に訴えた。「ああ、主よ、わたしがまだ国にいましたとき、言ったとおりではありませんか。だから、わたしは先にタルシシュに向かつて逃げたのです。わたしには、こうなることが分かっていました。あなたは、恵みと憐れみの神であり、忍耐深く、慈しみに富み、災いをくだそうとしても思い直される方です。主よどうか今、わたしの命を取ってください。生きていくよりも死ぬ方がましです。」

主は言われた。「お前は怒るが、それは正しいことか。」

そこで、ヨナは都を出て東の方に座り込んだ。そして、そこに小屋を建て、日射しを避けてその中に座り、都に何が起るかを見届けようとした。すると、主なる神は彼の苦痛を救うため、とうごまの木に命じて芽を出させられた。とうごまの木は伸びてヨナよりも丈が高くなり、頭の上に陰をつくったので、ヨナの不満は消え、このとうごまの木を大いに喜んだ。ところが翌日の明け方、神は虫に命じて木に登らせ、とうごまの木を食い荒らさせられたので木は枯れてしまった。日が昇ると、神は今度は焼けつくような東風に吹きつけるよう命じられた。太陽もヨナの頭に照りつけたので、ヨナはぐったりとなり、死ぬことを願って言った。「生きていますよりも、死ぬ方がましです。」

神はヨナに言われた。「お前はとうごまの木のことです。怒るが、それは正しいことか。」彼は言った。「もちろんです。怒りのあまり死にたいくらいです。」すると、主はこう言われた。「お前は、自分で

勞することも育てることもなく、一夜にして生じ、一夜にして滅びたこのとうごまの木さえ惜しんでいる。それならば、どうしてわたしは、この大なる都ニネベを惜しまずにいられるだろうか。そこには、十二万人以上の右も左もわきまきまぬ人間と、無数の家畜がいるのだから。」(新共同訳聖書)

預言者ヨナは主なる神から命じられました。「大いなる都ニネベ」に行き、神の言葉を告げよと。彼らの悪が、主の前に届くほど大きかったからです。ところがヨナはこの任務を放棄し、ニネベと正反対の方向に船出して、主なる神から逃れようとしています。船は大嵐に巻き込まれ、その中でヨナは海に投げ出されて死ぬところでしたが、主は巨大な魚にヨナを呑み込ませ、三日三晩の後に陸地に吐き出させて、彼の命を救いました。

主は再びヨナに、ニネベに行つて語ることを命じ、ヨナは今度こそ命令どおりに実行します。彼らの悪に対する、神からの裁きの言葉を、「あと四十日すれば、ニネベの都は滅びる」と叫んで歩いたのです。すると、ちょっと信じがたいことですが、ニネベの人々は身分の高い者も低い者も、王に至るまで悔い改めて断食し、神に救しを祈願しました。神はこれを見て、ニネベに災いをくだして滅ぼすことをやめられたのでした。

ところが、ヨナはこれを見て怒り出し、主なる神に不満をぶつけます。極悪非道の限りを尽くしたニネベも、結局、ただ反省するだけで罰を免れる。こんなことがあつていいのか。こうなるのが分かつていたからこそ、わたしは最初、ご命令に背いて逃げてでも、ニネベに行きたくなかったのだ。ニネベが赦されるぐらいなら、わたしはいつぞ死にたい、と。主なる神は言われます、「お前は怒るが、それは正しいことか。」

ヨナはなお諦めきれず、都の外に小屋を立てて居座りまして、ニネベの行く末を見張ろうとします。ニネベの人々の反省も束の間、またたく間に悪しき本性があらわれて、やはり神から処罰されて滅ぼされる…、という展開を期待してでもい

たのでしようか。ヨナは、ニネベを心底嫌い、憎んでいたらしいことが伺われます。歴史的なことを参考にすれば、ニネベは古代アッシリア帝国の首都。ヨナ自身の出身地である北イスラエル王国を滅ぼした敵国です。ニネベの悪が赦されていいはずがない。そういう感情を抱いていると解釈すれば、ヨナの言動もある程度理解できます。

しかし、ここから後の、ヨナと主なる神のやり取りが面白い。暑熱に苦しみながらも居座るヨナに、主が丈の高いとうごまの木をよとして木陰を作つてあげると、ヨナの不満は消えて喜びます。しかし主が翌日、敢えてとうごまの木を枯れさせると、熱風と太陽にさらされたヨナは、もう死にたい、とまた言い出します。主はもう一度、「お前はとうごまの木のことです。怒るが、それは正しいことか」と言われますが、ヨナは「もちろんです」と言つてのけるのです！ わたしが怒るのはむしろ正当だ。憤死してもおかしくないほどだ、と。すると、神からの痛烈な、しかし「恵みと憐れみ、忍耐、慈しみ」にあふれた一言が…。

ヨナは自分自身、神に背いて滅びるところだったのを、神によって死の淵から救われ、もう一度チャンスを与えられたのでした。しかし他の人々、特に自分の憎む相手のこととなると、そんな展開になるのは許容できない、奴は(奴らは)絶対に滅ぼされるべきだ、と考える。

クリスチャンとは、「わたしは罪人でありながら、イエス・キリストの十字架の贖いによって赦され、滅びの道から救っていただいた」と信じているはずの人々です。神が、一人の罪人が滅びることを惜しまずにはいられない、恵みと憐れみの神であられるからこそ、わたしは救われるのです。しかし、クリスチャンが他者を、あるいは他国を憎悪するときには往々にして、自らに示してもらつたこの神の心の広さ、忍耐深さのことは、はるか彼方に忘れ去られてしまっています。

現代のわたしたちにも、主はこう言つてはおられないでしょうか。「お前は怒るが、それは正しいことか。」

東京教区第八十二回定期教区総会

ヤング 肇 子

五月三十一日、六月一日の両日東京教区の第八十二回定期教区総会が北区赤羽会館において行われました。

初日の総会においては、東京神学大学の授業が無かった日でしたので出席が適いました。初めての経験で議事日程に沿って参加しました。

三役報告・常置委員会報告に関する件、教区三役選挙に関する件、常置委員半数改選に関する件、教区選出教団総会議員の選挙に関する件、二〇二一年度決算報告、二〇二二年度予算案承認に関する件と議事が進み、質疑応答の場面では何度も同じ問題について同じ方による質疑が繰り返されましたが、この総会出席前にお聞きしていたほどの執拗さではありませんでした。

選挙が始まりましたが、投票用紙に多くの議員名の明記が必要で、全員が記入を完了するまでの完了確認の手際も悪く、長い選挙時間を要しました。教団総会議員第一選挙がこうして終わり、次に遅れてこられた日本基督教団の総会議長をはじめ、教団事務局・出版局・年金局、そして「隠退教師を支える運動」推進委員会、教団会堂共済組合、教団部落解放センターなどの役員の方々の長いご挨拶でした。様々な役目を担って下さる役員に本当に感謝です。

私は学校で代議委員会の陪席の責任があった為、教団総会議員第二選挙を待たず退席させて頂きましたが、東京教区は一番大きな教区の為、出席議員は多数でした。教区三役選挙では、麻布南部坂教会の元牧師渡邊義彦先生が議長に、そして伊藤英志副議長、遠藤忠書記が新たに選出されました。今年三月に東京神学大学を卒業して教会に赴任された先輩が二名、議員として出

席されていました。

今回、初めて東京教区の定期教区総会に出席してみても、これだけ様々な考えを持つ多くの人たちをまとめていく(まとまってるかどうか分かりませんが)役員の方々の苦労も感じられました。そしてカトリックの組織や役員の働きはどうなっているのだろうかという別の教派に関しても興味湧きました。

私たちを、そして教会を支えて下さる神さまやすべての人の働きに感謝します。

報 告

*五月三十一日(火)〜六月一日(水)、赤羽会館において東京教区総会が行われ。松谷牧師とヤング役員が議員として出席しました。各種報告、決算・予算案等が承認・可決されたほか、教区三役、常置委員の半数、教団総会の議員を選出する選挙が行われました。教区三役選挙では、渡邊義彦議長、伊藤英志副議長、遠藤忠書記が新たに選出されました。
*教団社会委員会が呼び掛けている「ウクライナ救援募金」について、教会で取りまとめ、六月末に締め切り、送金しました。

成人会

《各部報告》

日時 五月十五日 主日礼拝後
場所 教会堂会議室
出席者 四名
閉会祈祷 下奥敏子姉
内容 創世記六章〜八章
「ノアの箱舟」
神はなぜ、ノアに巨大な箱舟を作らせたのか?神は地上に「人」を作ったことを後悔した。「人間に墮落と不法」が蔓延した

ので洪水を起こして地上のすべてを滅ぼすことにした。ノアの家族とすべての動物、植物を雄雌一対ずつ箱舟に入れた。地上をきれいにしたので神は二度と洪水を起こさないことを決め、忍耐深く愚かな人間を導いて行こうと思われた。(下奥敏子 報)

日時 六月十九日 主日礼拝後
場所 教会堂会議室
出席者 六名
閉会祈祷 ヤング肇子姉
内容 エゼキエル書一章〜三章
このエゼキエル書は黙示録のベースとなっている書である。エゼキエルは幻を見、召命を受ける。二章において、神は預言者としてエゼキエルに、うなじの堅い(頑固なこと) 叛逆の民に向けて話すように命じた。神はエゼキエルにご自身の言葉を預けた。語るべき預言はその指示通り神がエゼキエルの口を開く時にされ、神が黙する時は預言者も黙される。三章の「巻物を食べよ」、巻物の内容は辛いこと(哀歌、うめき、なげき)だが、良いことだけが神の言葉ではない。神の言葉は蜜のように甘い。(ヤング肇子 報)

婦人会

日時 五月二十二日 主日礼拝後
場所 教会堂会議室
出席者 九名
閉会祈祷 菊池才知子姉
聖書研究 列王記上五章十五節〜九章九節
五章十五節〜 ソロモン王はティルスのヒラム王に用材のレバノン杉伐採を依頼し、ヒラムはそれに応じた。ソロモンはイスラエルの男子に労役を課した。監督アドニラムの指導の下、神殿の土台石を切り出す労働者八万人と工事監督三千三百人が工事を担った。
六章 神殿の設計と内陣のデザインと装

飾、至聖所の設置等、神殿は七年後に完成した。
七章 ソロモンは「レバノンの森の家」や、自分の住居、妻のための住居広間を建てた。

八章 王はイスラエルの長老、部族長をエルサレムに招集し、主の契約の箱、臨在の幕屋、聖なる祭具を担ぎ登り神殿の内陣の至聖所に安置した。ソロモンは、約束を果たされた主に感謝と恭順の長い祈りを奉げ、イスラエル部族と共に主の神殿を奉献した。

九章一節〜九節 主は再びソロモンに現れ、父ダビデと同様に正しく主の前を歩み、掟と法を守るなら、王座を永久に存続させる。もし、主に背くなら、主が約束の地からイスラエルを断ち、諸国のもの笑いと嘲りの的となる、と言われた。(菊池才知子 報)

日時 六月二十六日
場所 教会堂会議室
出席者 九名
閉会祈祷 菊池才知子姉
聖書研究 列王記上九章十節〜十章四三節
九章十節〜 ソロモンは主の神殿と王宮、エルサレムの城壁、七つの町を築いた。十章 ソロモンの名声を聞いたシエバの女王は贈り物を携え、知恵比べにやって来たが、ソロモンの知恵と富に驚嘆した。十一章 ソロモンは主が禁じた異邦人の女を愛し、そのとりことなった。多くの王妃と側室たちは老境に入ったソロモンを惑わせた。ソロモンの背信に主は怒り、王国の分裂を予告した。主はエドム人ハダド、エルヤダの子レゾンを敵対勢力として起こされた。主はシロの預言者アヒヤを通してエフライムのヤロブアムにイスラエルを与えると言われた。ヤロブアムはソロモンの手からエジプトに逃れた。(菊池才知子 報)